

長久手キャンパス 新1号棟前広場「センタースクエア」が完成



3号棟西側「社」も整備

1975年の開学よりも前から、長久手キャンパス周辺には稲荷（末廣稲荷）が祀られており、これまでの工事に発見された標柱を3号棟西側に社として奉祀してきました。2024年3月、長久手キャンパス整備工事の完了に伴い、この社も本学の新たなシンボルスペースとして整備しました。モダンなデザインのベンチが置かれ、くつろげる空間となっています。



小林素三郎先生と小林素文先生による、稲荷の標柱に関する直筆の書も、併せて再整備しました。

2024年度、愛知淑徳学園は創立120周年、愛知淑徳大学は開学50周年を迎えました。その周年記念事業の一環として、2021年度から長久手キャンパスの整備が進められ、2023年度には新1号棟が完成。そして本年度、以前の1号棟があった場所が「センタースクエア」として生まれ変わりました。

センタースクエアは、学生たちに憩いの場を提供すると共に、淑楓祭をはじめとするイベントではステージなど多目的に活用できます。また、センタースクエアを囲むように上空通路が架けられ、1号棟や12号棟、13号棟など各建物への移動がスムーズになりました。

「伝統は、ちどまらない」という姿勢のもと、より充実した学び舎へと進化し続ける長久手キャンパス。センタースクエアは学生生活を彩る空間となり、本学の新たな歴史を刻んでいくことでしょう。